

カナダガン捕獲大作戦

かとう
加藤ゆき（学芸員）

2010年2月13日朝、山北町丹沢湖にカナダガン捕獲チームが集まりました。横浜市の動物園、かながわ野生動物サポートネットワーク、日本野鳥の会神奈川支部（現：日本野鳥の会神奈川）、そして生命の星・地球博物館のスタッフからなる、作戦の主体・実行部隊です。目的は丹沢湖に生息しているカナダガンを捕獲すること。雪が降りしきるなか、作戦は行われました。

カナダガンとは？

「カナダガン」。あまり聞きなれない名前ですね。日本鳥類目録改訂第6版では、カナダガンの種名は「シジュウカラガン」、アリューシャン列島や北米に生息するカモの仲間、形態によって8～12亜種に分けられています。日本には、千島列島やアリューシャン列島で繁殖する亜種シジュウカラガン（図1）が東北地方へ数少ない冬鳥として、亜種ヒメシジュウカラガンがまれな冬鳥として各地に渡来します。

一方、1980年頃から、明らかに体の大きな個体が、静岡県や山梨県で一年を通して観察されるようになりました。近年は、40ヶ所60羽程度が報告されています。一番生息数が多いのは、山梨県富士五湖周辺で40羽程度、次いで静岡県で10～20羽程度、ほかに長

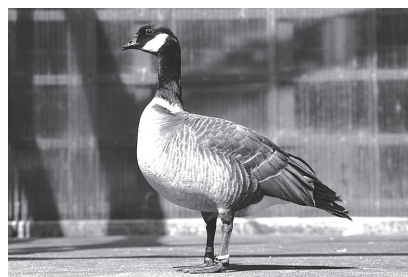


図1 亜種シジュウカラガン。大型亜種より小柄で首の白い輪と短いくちばしが特徴（上野動物園・撮影：重永明生）。



図2 丹沢湖で確認されている大型亜種（2010年2月15日 丹沢湖）。

野県や神奈川県、宮城県などで確認され、各地で繁殖も確認されています（呉地正行氏 私信）。

神奈川県の初記録は、1988年3月に相模川河口で観察された7羽です。丹沢湖では、1993年5月に初めて記録され、1995年には成鳥2羽とともにヒナ2羽も確認されました。その後、数羽から十数羽が季節を問わず報告され、繁殖も確認されています（図2）。

これらは、羽の色やくちばしの形、体の大きさなどから、アメリカ北部に広く分布する大型の亜種カナダガンまたは亜種オオカナダガンだと推定されています。これら亜種は、分布や生態から、日本へ自然に渡来するとは考えられません。愛玩用として輸入され、動物園や公園などで飼育されていたものが逃げ出し野生化、繁殖して増えたものが各地へ分散したと考えられています。

ここでは、冬鳥として定期的に渡来している亜種シジュウカラガンと逃げ出した大型亜種とを区別するために、自然渡来の亜種を「シジュウカラガン」、大型亜種を「カナダガン」と呼称することにします。この両者は、「似ているけれど違うのです」（図3）。

カナダガンは要注意外来生物

環境省は、カナダガンを「シジュウカラガン（大型亜種）」として、法規制の対象とはならない「要注意外来生物」に選定しています。「特定外来生物による生態系に係る被害防除に関する法律」によって、生体の放野や移動が禁止されている特定外来生物に指定されなかったのは、被害例が報告されていないためでした。つまり、在来亜種と交



図3 在来亜種と外来亜種を見分けるためのチラシ（企画編集：日本雁を保護する会・発行：環境省生物多様性センター）。

雑する可能性が危惧されるものの事例がないこと、海外では飼育由来の留鳥化したオオカナダガンが増加した地域で、草地の過食、水草への被害、水際の土壌流出などが問題となっていますが、日本では確認されていないことが大きな理由のようです。

忍び寄る危険

現在、一番心配されているのは、シジュウカラガンとカナダガンとの交雑です。カモのなかまは種間交雑しやすいことが知られ、特にシジュウカラガンとカナダガンは亜種関係にあり、容易に交雑をすることが考えられるからです。

シジュウカラガンは環境省レッドリストで絶滅危惧ⅠA類に区分されている希少な鳥で、かつて絶滅寸前まで生息数が減少しました。しかし、30年にもおよぼ保全活動の結果、徐々に数が増え、日本にも数十羽が渡来するようになりました。

今のところ、シジュウカラガンは東北地方を中心に冬鳥として渡来、カナダガンは主に関東から中部にかけて生息が確認されており、主要な分布は重なっていません。しかし、将来的に、カナダガンが増加、生息域を拡大しシジュウカラガンとつがいを作ったら、多くの人間、国、保護団体、動物園などが行ってきた長年の努力はすべて無駄になります。

実際、ここ数年、ニアミスの事例が寄せられるようになりました。シジュウカラガンの主要越冬地である宮城県伊豆沼周辺では、冬季にカナダガンが観察され、関係者をヒヤリとさせました（呉地氏 私信）。また、2008年12月には神奈川県中央を流れる相模川で、シジュウカラガンが確認されました。幸いなことに、周囲にはカナダガンは生息しておらず、両者は出会うことはありませんでした。しかし、このときシジュウカラガンが丹沢湖にも渡来していたら、つがいを作っていたかもしれません。丹沢湖と相模川は直線で30kmほど、長距離を移動する鳥にとって、ほんのひと飛びの距離です。

この事態を受け、保護団体や研究者が話し合った結果、丹沢湖に生息するカナダガンを「予防原則」にのっとり、早急に対処する必要があるということで

意見がまとまりました。そこで、捕獲チームを編成、丹沢湖に生息するカナダガンを全数捕獲し、動物園などの飼育施設へ移送して、詳しい生態情報を収集する、という計画を進めることにしました。

作戦前の準備

まず、捕獲した後の飼育施設を確保しなければなりません。これは、横浜国立大学野毛山動物園と福岡県にある国営公園海ノ中道海浜公園が引き受けてくれることになりました。

次に、捕獲時期や手法を決めるために、丹沢湖での生態情報を集めました。これまでの調査データや丹沢湖ビジターセンターへのヒアリング、日本野鳥の会が行った事前調査をもとに最新の情報をまとめました。捕獲手法は、「日本雁を保護する会」の呉地正行氏に現地を見ていただき、検討を行いました。

その結果、手法は手捕り、捕獲羽数は全数11羽、時期はヒナが生まれる前の遅くとも4月ごろまでに実施、捕獲後は動物園へ速やかに移動する、という方針で進めることにしました。調査項目は、DNA分析と外部形態による亜種同定、エサ内容や行動調査、繁殖状況などで、博物館、動物園、研究機関、NPOが手分けして行うことにしました。

地元の方々の理解と協力も重要です。そのため、2か月ほどかけて情報を伝えました。今回の作戦の趣旨や外来種について役場へ説明に行ったり、リーフレットやチラシ、ポスターを作り、地元の自治体や小中学校、ビジターセンター、丹沢湖周辺の家へ配布したり掲示してもらったりしました。

いざ捕獲許可申請へ

方針を決めてから、捕獲を申請するために、神奈川県緑政課（現：自然環境保全課）へ相談に行きました。外来種の駆除にあたると考え、当初は「有害鳥獣駆除」により申請するつもりでした。

ところが、カナダガンは外来種ではあるが、明確な被害が出ていないため「有害鳥獣駆除」を目的とした捕獲は許可できないとのことでした。そこで、研究を目的とした「学術捕獲」として申請したところ、第10次神奈川県鳥獣保護事業計画書にのっとり「研究目的を達成するために不可欠な必要最小限」の羽

数しか許可できず、全数捕獲・飼育は難しいとの見解が示されました。

そこで、研究項目を整理し、丹沢湖に生息していると推定される11羽のうち、7羽を捕獲後、動物園で飼育、飼育下での生態情報を収集する。残る4羽は個体識別のための足環を装着し放鳥、野外での生態調査、特に利用環境や他地域との交流実態について調査を行う、という2本立ての内容で申請しました。この計画はすぐに許可されました。

「カナダガン捕獲大作戦」実行！

いよいよ実行です。2月13日朝、捕獲チーム6人が丹沢湖に集結し、山北町立三保中学校にいた4羽を捕獲、すべての個体を野毛山動物園へ移送しました（図4）。

2月22日に再び捕獲チーム14人が集まり、三保中学校で1羽、玄倉で4羽を捕獲、そのうちの3羽を野毛山動物園へ移送、2羽に足環をつけた後、DNA解析用の羽毛を採集して放しました。

捕獲後、関係団体やビジターセンター、地元の自治体や小中学校に対し、今回の作戦の経緯や概要をポスターやチラシ、メールなどで知らせ、野外での観察記録の提供をお願いしました。現在、少しずつですが情報が寄せられています。

情報をお寄せください！

せっかく足環を付けて野外へ放しても、観察をしなければ何の意味もありません。現在、個体ごとのエサ内容や利用環境、人間への警戒程度など調査を行っています。しかし、利用場所などの情報は足りません。

そこでみなさんにお願ひです。丹沢湖に放した2羽のカナダガンには、図5のような足環を付けています。このような個体を発見された場合は、メール、FAXなどで筆者までご連絡ください。足環の情報、連絡先はホームページ「足



図4 捕獲したカナダガンをケージに入れた（2010年2月13日 三保中学校）。

環付きのカナダガン見かけませんでしたか？（<http://www.013.upp.so-net.ne.jp/crane/>）にまとめています。「足環なし」のカナダガンの情報も大歓迎です。

今後に向けて

今回の作戦を進めるにあたり、一番苦労したのは行政との折衝です。交雑の危険を防止するためには、各地のカナダガンを一斉に捕獲するのが望ましい対処方法です。しかし、現在、野生鳥獣の捕獲許可は各都道府県の管轄となっており、事例を見ていると、判断基準はまちまちのようです。

神奈川県の場合、外来種対策としての「有害鳥獣駆除」とするのか、野鳥を研究するための「学術捕獲」とするのか判断に迷ったらしく、最終的な見解を出すのに3か月以上かかりました。外来種の対策を効率的に進めるためには、環境省が統一した見解を出し、種ごとにある程度の判断基準を定め、都道府県へ提示する必要があると感じました。

動物の福祉上も早急な対応が望まれます。今回、捕獲した個体は動物園で終生飼育をしてもらえることになりましたが、施設に収容できる羽数には限りがあります。受け入れてもらえる施設があるうちに捕獲・収容をすすめたほうがよいでしょう。

今回の丹沢湖での作戦をきっかけに、情報が集まり、まとまった数が生息している山梨県や静岡県など他地域のカナダガン対策が進むことを強く期待しています。

今回の捕獲に際し、様々な便宜を図っていただいた丹沢湖ビジターセンター、三保中学校、三保小学校、そして、貴重な助言をいただいた日本雁を保護する会の呉地正行氏と我孫子市鳥の博物館の時田賢一氏に感謝の意を表します。

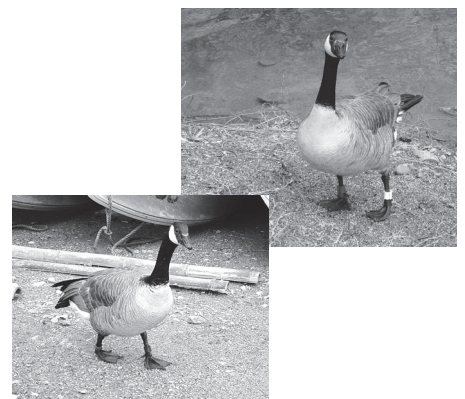


図5 足環付きのカナダガン（左下：赤青・右上：赤白・2010年4月6日 丹沢湖）。